

▶▶▶ レッスンプランの作り方

レッスンプランの立て方・二種類の例

- ターゲット単語や文を先に決め、アクティビティを後から決める
- アクティビティを先に決め、ターゲット単語や文を後から決める

通常の授業の構成（例）

①ウォームアップ	<ul style="list-style-type: none"> ■あいさつ ■テーマソング ■会話練習 <ul style="list-style-type: none"> ※毎回聞くもの（答えが決まっているもの）【名前・年齢・天気・曜日など】 英語の質問を投げかけることによって頭を日本語→英語モードへと切り替える
②前回の復習	<ul style="list-style-type: none"> ■5分を目安に簡単に行う ■前回・前々回の復習を効果的に取り入れる <ul style="list-style-type: none"> まったく復習を取り入れずに新しい項目だけ詰め込むのと、復習をある程度取り入れるのでは、当然のことながら既習事項の定着度に差が出てくる
③今日のターゲットの紹介	<ul style="list-style-type: none"> ■紹介する単語数の決定 <ul style="list-style-type: none"> →単語は2回聞かせた後、2回リピートさせる ■使用する構文の決定 <ul style="list-style-type: none"> →現在形を主に使用し、アクティビティの中で取り入れられるものを選ぶ (例：What's this? How many～? What color～? Do you like～?) →構文は会話のやりとりのモデルを見せる (パペットを使用する／立つ場所を変えるなどして、1人2役を行う ／児童一名を指名し質問し、答えのモデルを示し、やりとりを促す)
④アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> ■アクティビティの選択 <ul style="list-style-type: none"> →ターゲットの単語・構文の定着を図ることができるもの ■アクティビティの説明・実施 <ul style="list-style-type: none"> →ルールの説明は口頭で行わず、児童1人とモデルを示し、全員に理解させる →大人数の小学校のような環境では、グループ毎に競わせるものを取り入れると、全体が参加して盛り上がるができる →アクティビティはあまりだらだらと行わず、時間やポイント数を決めて行うと良い。もうちょっとやりたいと思っている時が止め時 →勝敗の決定は必ずはっきりと行い、誉め言葉・励ましの言葉を添える
⑤歌	<ul style="list-style-type: none"> ■ターゲット単語や文にそった歌を選ぶ ■振り付けを楽しむだけの歌を選ぶ ■行事にあった歌を紹介する
⑥まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ■その日習ったことを簡単にまとめる ■次回の予定があればその予告をする ■児童ががんばったこと、成果を認めて日本語と英語を両方使って誉める

その他

- ネイティブの先生は日本人の先生と比べて大変誉め上手です。小さなことでもたくさん誉めてくれます。
- 日本人の先生も負けずに、たくさんの表情・表現・語彙を使って児童を誉め、英語に精一杯取り組んでいる児童に自信を持たせてあげて下さい。